

Q1. TEC-FORCE隊員として、 どのような役割を担っていますか？

私は、平成23年の東日本大震災の時からTEC-FORCE隊員として被災自治体の支援を行っています。私の専門は、「砂防」です。砂防とは、土砂災害から、ひと、まちを守るために砂防堰堤などを整備するものです。災害が発生した際、すぐに現地に入り、土砂の崩落状況等を確認し、復旧方針の検討や二次災害防止のための対応策の検討を行います。

ドローン部隊が上空から撮影した動画・写真等も活用しながら対応策を考え、被災自治体の方々へ助言するのが私の役割です。

令和3年の熱海の災害では、土砂災害状況の合同調査、二次災害防止のための助言、監視体制の構築等を行いました。



緊急監視カメラの設置
(令和3年7月1日からの大雨)

INTERVIEW

02

かしの まこと
榎野 誠

中部地方整備局
多治見砂防国道事務所

Q2. 日頃から心がけていることは何ですか？

被災地では、日常の業務のように豊富な情報に基づいた判断は難しいです。多くの機関が一斉に被災地に入るため情報も錯綜します。私は、日ごろから「自発的自己完結」が重要であると考えています。被災地でも基本は、報告・連絡・相談です。そのうえで、被災地には、どのような問題があり、それに対して、どのような対処をすべきかについて、自らが自発的に動き、組織を超えて、

関係者と一緒になって対策を導き出すという姿勢が重要であると考えています。

このような取り組みを行うためには、日ごろから、自治体の方々等と顔を見て話す機会をなるべく多く持ち、何か心配事があった際に、気軽に相談したり、相談してもらったりできる、いわゆる「顔の見える関係」を構築しておくことがとても大事です。そのことが、いざ災害が発生した際の迅速かつ円滑な対応につながるものと考えています。



被災状況調査結果をふまえて関係機関へ対応方針を助言
(令和3年7月1日からの大雨)

Q3. TEC-FORCEとは一言で何ですか？

「技術的支援隊」です。

災害を受けた直後は、当然、どのような被害が発生しているかわかりません。そのため、まずは被災自治体を含めて、関係者が連携し、こういった問題があるかを迅速に把握したうえで、対応策を柔軟に考える必要があります。私たちTEC-FORCEは、そのような検討に必要な被災自治体へ技術的な支援を提供しています。

